

大阪市環境審議会 第3回「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」実行計画推進検討部会  
議事録

第3回部会の審議内容として、第1・2回部会における主な内容やご意見・質問に関して、本計画の見直し内容やその対応について説明を行った。

インターネット用アンケート等に関して、質問の選択肢や自由記述欄の回答例等について説明を行った。

「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」実行計画（案）（令和8年3月（令和3年3月策定））について、その他の取組みの主な内容として、計画（案）23ページの「Push for Eco！（大阪エコ推し）運動」のプラスチックに係る資源循環の促進、34ページの市内全域での路上喫煙禁止の推進、37～38ページの水環境イベントの開催やコラム、39ページの排出事業者等への規制・指導、47ページのきれいな水質の指標となる魚種の市内河川での確認地点数の説明を行った。

事務局の説明について、概ね了承できるが、次のとおり質問、意見等があった。

○第1・2回検討部会における主なご意見・質問内容とその対応

島田専門委員：イベントや河川クルーズなどを通して水辺空間を楽しむ人の数について、計画（案）55ページの河川クルーズ船の利用人数に関して、利用人数が140万人に達していることが分かるように記載した方が良い。

事務局：ご指摘のとおり、河川クルーズ船の保有状況や安全運航などの理由から利用可能な人数が140万人であるため、文章を分かりやすく修正する。

島田専門委員：海外への情報発信や事業展開の機会を創出した件数について、計画（案）46ページに、具体的な取組み事例が記載されるので市民や事業者にとってわかりやすくなっている。また、計画（案）43ページに、策定当時の目標を達成し、国際協力のさらなる推進を図るために新たな指標値を設定するようになっており、前向きに本取組を進めていることがわかるようになっているのは良い。

島田専門委員：海洋プラスチックごみの削減等に関わるステークホルダー間の連携を創出した件数について、計画（案）60～61ページ及び巻末資料-17～18に具体的な取組み事例を計画に記載することで、他の団体への啓発にもなり、行政としても参考になるので良い。また、61ページのUNEP-IETCと市民団体等から組織されているなにわエコ会議との連携事例については、国際機関が様々な活動にも取り組んでいることを知ってもらうことは重要である。

島田専門委員：給水スポットの水色スイッチについて、計画（案）25ページの記載は分かりやすく、行ってみたいという気になるので良い。

島田専門委員：プラスチック資源の一括収集の計画（案）26ページについて、この取組が計画目標の達成に繋がっていることが分かるようになっている。

島田専門委員：有機フッ素化合物の取組について、計画（案）49ページの内容で問題ない。

飲用しないように啓発を継続することが重要である。

中谷専門委員：有機フッ素化合物の取組について、計画（案）49 ページの内容で問題ない。

令和8年4月から、水道水の水質基準の省令改正により PFOS 及び PFOA の項目が追加されるが、その内容は記載しないのか。

事務局：水道水の水質基準の省令改正は承知しているが、市内の水道水は基準を超過していないことから、コラムとしては、河川や地下水の公共用水域に関する PFOS 及び PFOA の取組を記載している。

中谷専門委員：飲用しないための啓発とのことなので了解した。

藤田委員：海洋プラスチックごみの削減等に関わるステークホルダー間の連携を創出した件数の具体的な取組み事例について、巻末資料-17～18 ページには多くの団体等が連携した実績例があり参考になる。なお、記載されている団体名は、正式な名称とそうでないものが混在しているので統一すべきである。また、取組実績については、表にして記載することについては問題ないが、連携した団体を表で区分けする必要はないと思うので、もう少し表の見栄えなどを工夫してはいかかがか。

事務局：団体名については正式名称で統一するように修正する。また、表についても連携した団体を区分けしないよう修正する。

藤田委員：プラスチック資源の一括収集の取組みの計画（案）26 ページについて、パンフレットを掲載しているが、縦横の比率を変えているのではないのか。比率は変えない方が見やすい。

事務局：元の比率に戻すように修正する。他のパンフレットについても、同様に縦横の比率は元の比率となるよう修正する。

藤田委員：有機フッ素化合物の取組について、計画（案）49 ページの井戸のイラストは分かりにくいので、別のイラストを考えてはどうか。

事務局：承知した。他の分かりやすいイラストに変更する。

貫上部会長：海外への情報発信や事業展開の機会を創出した件数について、計画（案）46 ページに具体的な取組み事例のコラムとして、UNEP-IETC や JICA のことが記載されているが、大阪市がこの取組に協力した事例であると考えて良いか。

事務局：ご認識のとおり、本市が協力した事例である。

貫上部会長：海洋プラスチックごみの削減等に関わるステークホルダー間の連携を創出した件数について、計画（案）60～61 ページにコラムの記載があるが、大阪市はこの取組にどのように関わったのか。

事務局：大阪市が、ステークホルダー同士をつなげることにより、新たに連携した取組を創出したものを記載している。

ステークホルダー間の連携を創出実績として、巻末資料-17～18 ページにその実績を表にして記載している

貫上部会長：巻末資料の連携実績は文字の大きさが他のものより小さいことが、見栄えを悪くしている一因と考えられるので、ページ数が増えても良いので文字の大きさを調整する等の工夫をしてはいかかがか。

事務局：ご指摘を踏まえ修正する。

貫上部会長：有機フッ素化合物の取組について、計画（案）49 ページの内容で問題ない。コロナウイルス感染症拡大前の時期であるが、近隣の小学校から菜園用に井戸水を利用できないかという相談があった。農作物への影響などの知見はあるのか。

事務局：近年の農林水産省の研究では、有機フッ素化合物（PFOS 及び PFOA）の合計値が目標値である 50ng/L を超過した河川水や地下水を用いた稲作等の農作物への影響については、作物にほとんど移行、蓄積しないという報告がある。

貫上部会長：そういう知見があるなら安心できる。

#### ○アンケート調査の内容について

島田専門委員：インターネット用のアンケートの自由記入欄は、例示することにより回答者が記載しやすくなったと思われる。また、「プラスチックごみを減らすため、どうしたら良いと思いますか？」の質問に関しての例示については、個人の取組だけでなく、行政に対しての内容も例示されており、幅があって良い。

アンケート結果については、各施設管理者にフィードバックするなどを検討してほしい。

事務局：承知した。

中谷専門委員：インターネット用のアンケートの自由記入欄については、回答者が記載しやすくなったと考えられる。また、子ども用のイベントアンケートについて、問3の「川、海、干潟、川ぞいや海辺の公園、船や船着き場など」は、選択肢で「行ってみたい」や「行きたくない」と場所を聞いているが、質問に「船」があり、選択肢の回答としては不適切と考える。この質問では船は必要ないので、「船着き場」とするべき。

事務局：ご指摘のとおりであり、「船」は削除する。

藤田委員：アンケートの中に口語が混じっているので、全て文語に統一すべき。

事務局：ご指摘のとおり、文語に修正する。

藤田委員：インターネットアンケートの大問3・14・17の3箇所の自由記入欄の例示については、あまり賛同できないが、少しでも記入を増やしたいため、例示したいという意図は理解できる。ただし、例示により肯定的な意見への誘導とならないよう、中立的な意見や否定的な意見も記載すべきである。特に、大問14は、「大問13で記載のないプラスチックごみを削減するための行動をしている場合は、その行動内容をご記入ください。」であり、例示は大問13にもあり不要と考える。

事務局：例示は、回答者に少しでも記載いただきたいという思いと、回答者への啓発につながるのではないかという思いで作成したが、肯定的な回答への誘導とならないよう中立的な意見や否定的な意見も併記するよう修正する。また、大問14についてはご指摘のとおりであり、例示は削除する。

藤田委員：イベントアンケートの問1に「年代」とあるが、「年齢」ではないか。大阪市が実施している他のアンケート等を確認し、修正すべきか検討してもらいたい。

また、大人用のイベントアンケートについて、問5の「次の水辺の施設・空間のうち、

ご存じのものはありますか？」で水辺施設名が列記されているが、インターネットアンケートの順と異なっており整合がとれていない。

事務局：年齢の表記や水辺施設の順は、インターネットアンケートと整合するように修正する。

貫上部会長：イベントアンケートについて、水辺施設名を挙げているが、施設名だけでは回答者は分からないのではないのか。

事務局：イベント時に水辺施設を写真などで紹介したチラシを配布するよう準備を進めており、回答者にはそのチラシを見たうえで、利用したことがあるか等を回答できるようにしたいと考えている。

貫上部会長：了解した。

○「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」実行計画（案）（令和8年3月（令和3年3月策定））について

島田専門委員：これまで指摘した事項は反映されており、事例もたくさんあり、より分かりやすくなっている。計画見直し後は、本内容を広く府民・市民に見てもらうことが重要である。

中谷専門委員：巻末資料-3ページの大阪府環境審議会水質部会委員名簿について、委員の並びが五十音順となっていない。

事務局：ご指摘のとおりであり、委員の並びは五十音順となるよう修正する。

中谷専門委員：それ以外は、これまで指摘した事項は反映され、全体的に分かりやすくなっている。

藤田委員：計画（案）55ページの中段に「★」のマークがあるが、どのような意味なのか。

事務局：「★」マークは、計画（案）22ページに記載しており、本計画の目標の一つである「2030年度に大阪湾に流入するプラスチックごみの量を半減する」と目標を共有化している大阪府が策定した「おおさか海ごみゼロプラン」に基づく取組みのことを示している。

藤田委員：「★」マークについては了解した。ただし、本計画を見た人が、先ほどの説明されたページを見るとは限らないため、分かりにくいと感じる。計画を見た人が別ページにいかなくても理解できるように工夫できないか。

事務局：ご指摘を踏まえ「★」マークが何を示すのか見たページで分かるように検討する。

藤田委員：その他の指摘事項は反映されており、全体的に分かりやすくなっている。

貫上部会長：これまで指摘した事項は反映されており、全体的に分かりやすくなっている。

以上